



大学入試センター試験業務に関わる休日給について

1月に今年も実施されたセンター入試では、組合員の皆様、事務、警備、監督などの業務が休日出勤になった分、振替休はきちんと取れたでしょうか。

組合ではこの件に関して従来、実質的に取れない振替休に対しては、休日給を支払うように要求してきました。大学は、4週間内、そして今年3月いっぱいまでと範囲を広げた上で、そのどこかで代休の取得を要請してきています。組合は、まずは入試センター試験にまつわる諸事実を明確にするために、1月30日に質問書を提出しました。それに対して、2月7日付で大学から回答がありましたので、皆様にお知らせします。回答書に合わせて提出された資料を見ると、法人化前の2004年1月実施のセンター入試の際のセンターから大学への実施経費の積算では、試験監督者の経費として31,616円/人・日でした。大学によると、法人化後は積算内訳がしめされなくなっているため内訳は不明ですが、総額(2003年度1367万円にたいし、2006年度が1388万円)がほとんど変わっていないため、ほぼ同様の積算にもとづき経費が支払われているものと考えられます。

中執ではこの問題を今後の団体交渉においてどのように詰めていくかについて検討をしています。

論点としては、

- 1) 健康問題をベースにした振替、代休の在り方、
- 2) 労働法制上の問題、
- 3) 入試センターからの経費の使途の問題、
- 4) 大学側の誠意の問題

などが考えられます。

質問書に対する回答をご覧になった上でのご意見を求めます(質問書、大学からの回答書は2~4ページに掲載)。

ご意見は、

組合ボックス(union-s@sula0043.soc.shimane-u.ac.jp; 内2198)、

組合ML(kumiai@sula0043.soc.shimane-u.ac.jp)または、お近くの中央執行委員まで。

参考として他大学の状況をお知らせします。

岡山大(交渉報告ニュースより)

昨年度のセンター試験に関わる経費の収支報告があり、大学入試センターから支給された人件費の内、手当として支給されているのは70%弱であることが明らかにされました。今後の取り扱いについては、「センター試験にかかわる業務は通常業務の一部として特殊勤務手当支給と代休で対処する」という従来からの回答に変わりはありませんでした。

手当の金額については、法人化前には「1日1.6万円」であったものが、法人化後に「経営的理由」によって8,000円に引き下げられたという経緯があります。近隣の大学を調査した結果、今年度から1万円に引き上げられたとはいえ、近隣の私立大学では、ずっと多くの金額が支給されています。とりあえず、「来年度の手当支給額については、他大学の今年度実績を調査した上で再度検討する」ということで同意されました。

広島大(聞き取り)

センターからの委託業務なので、通常業務とは別に考えられている。会計も別で、教員の休日のアルバイトのような扱い。ただし、事務は振替休日基本。

徳島大(聞き取り)

教員には入試手当が支払われている。入試センターから支払われた人件費にはなっていない。事務は振替休日。

山口大(聞き取り)

センター入試に関わる教員、事務(パートも)に入試手当が支給されている。センターの積算とは別に大学独自に定額化している。他大学に比べて多いらしい。

名工大(全大教資料)：休日の入試業務に関わった事務・技術職員を含む全教職員への入試業務手当支給

金沢大(全大教資料)

入試手当については、2006年にセンター試験だけでなく、その他の入試に係る業務の手当化を実現したが、本年度、拘束時間による区分での実質引き下げ、これまで対象から除外されていた附属学校への適応を内容とした改定案が出された。

三重大(全大教資料)：基本的に「入試手当支給細則」等は、過半数代表との労使協議で公開されている。

和歌山大(全大教資料)

平成17年度より、教員の入試問題作成等の特殊勤務手当が支給されている。平成18年度から大学院入試手当も支給されることになった。センター入試手当については、現在謝金方式で教員・職員とも同じ時間単価で支給されている。

奈良教育大附属(全大教資料)

入試業務手当支給の改善と、事務職員の振替が困難であると判断された場合の休日給や入試手当の支給。

大阪府立大(全大教資料)：入試手当制度の導入

九工大(全大教資料)：入試手当は、昨年度導入された。

熊本大(全大教資料)：06年4月より就業規則の改訂に伴い入試手当が導入された。

山形大(全大教資料)

平成18年度に、入試手当新設の方向で審議され、教育研究評議会まで原案が提出された。しかし、学部の足並みがそろわず、継続審議となっている。19年度入試は、従来どおりの方法(残業扱いで処理)で行うことになっている。

秋田大(全大教資料)

団交要求事項となっており、事前折衝では、問題作成や採点業務などの困難な業務について来年度から具体化したいと述べている。

宮城教育大(全大教資料)

超過勤務手当としての代休が入試業務に付与されているが、基本的にあまり考慮されていない。給与構造の改革に関連して、入試手当が支給される可能性はあるが、そのアナウンスから既に二年ほど経過している。

岩手大(全大教資料)

従来センター試験の監督・警備に関わる教員に対しては、「超過勤務」として手当が払われていた。大学側では、これをすべて廃止し、休日勤務の振替で済ます動きも出されたが、組合等の抗議でその方針は取られず、入試手当という形で支給されることになった。これは、教員のみならず職員も支給対象となる、センター入試の監督等のみならず一般入試の監督、出題、採点も対象となる。

室蘭工大(全大教資料)：給与制度改悪に伴う代償的措置として、昨年4月に遡り新設、適用

北海道教育大(全大教資料)

入試手当、分校によって支給の仕方がばらばらであったものを統一し、来年度から制度として位置づけ支給。

富山大(全大教資料)：今年度から、手当化された。

1月30日に以下の質問状を提出しました。

2007年1月30日

島根大学長 本田 雄一 殿

島根大学職員組合

中央執行委員長 竹永 三男 印

大学入試センター試験にかかる経費の取り扱いについて(質問状)

このことについて、下記の通り回答を求めます。

記

大学入試センターからの入試業務に関わる委託料(収入)とその用途について、費目をあげて2月6日までにご回答ください。